

“令和の御大礼”の意義

—即位礼と大嘗祭、伝統の核心—

今年5月1日、新天皇が剣璽等を承継し踐祚（皇位継承）されるとともに、平成から新元号「令和」に改元され新しい時代を迎えました。10月には「即位の礼」正殿の儀が、11月には「大嘗祭」が執り行われます。これらの御代始めの諸儀が、伝統的な国家儀礼としてどのように行われ、またそれらがどのような意味をもって今日に継承されてきたのか、その内容と意義について考えてみたいと思います。

日本の皇室は世界の王室のなかでも最も古く、新天皇・皇后と我が国の歴史文化に、国際的な関心と注目が集まっています。

御代始めのこの機会に、日本人自身が、日本の歴史と文化、精神伝統の核心に関わる正確な理解を深めることが重要です。

新時代をどのように迎えるか、皇学館大学前学長 清水潔先生をお迎えし、日本のありようを考えてみたいと思います。



清水 潔 先生(プロフィール)

皇学館大学前学長、名誉教授、学事顧問、博士（法学）

（略歴）昭和23年（1948）名張市生れ。皇学館大学大学院修了後、同大学助手・講師・助教を経て平成3年（1991）教授。神道研究所長、史料編纂所長、学生部長、文学部長を歴任し平成23年（2011）学長、平成31年（2019）4月より名誉教授、学事顧問。（学界・社会活動）神道史学会代表、明治聖徳記念学会理事、藝林会理事、神宮評議員、神社本庁参与、名張市史編纂委員長などを務める。

（主要編著）『類聚符宣抄の研究』（国書刊行会、昭和57）、『新校 本朝月令』（皇学館大学神道研究叢書 平成14）、『伊勢と出雲の神々』（共著、学生社、平成22）、『伊勢神宮一悠久の歴史と祭りー』（監修、平凡社、平成25）、『おきつもの名張』（共著、ぎょうせい、平成16）、『名張市史 資料編・古代』（共編、ぎょうせい、平成24）など。その他『式内社調査報告』全25巻、『続日本紀史料』20巻の執筆編纂に従事。

日時

令和元年 **10月6日(日)**
午後1時30分～4時30分頃（開場 午後12時30分）

講師

皇学館大学前学長 **清水 潔 先生**

会場

国民會館・武藤記念ホール

参加費

一般の方 / 1,000円 学生 / 無料

（会場案内） 国民會館・武藤記念ホール

大阪市中央区大手前 2-1-2（住友生命ビル12階）（電話）06-6941-2433

交通アクセス

地下鉄谷町線の天満橋駅より徒歩5分、京阪天満橋駅より徒歩7分



主催：一般財団法人 日本学協会

ホームページ：<http://nihongakukyokai.or.jp/>
又は「日本学協会」リンク先：関西定例講演会

問合せ：日本学協会 関西

事務局／野崎眞夫 携帯 090-9879-3135
TEL/FAX 072-272-4010
E-mail：nihongaku.kansai@lily.ocn.ne.jp
又は E-mail：m.nozaki@kkf.biglobe.ne.jp